

# JA全農 とくしま情報

地域の話題や活動のご報告  
今後のお知らせなど  
JA全農とくしまと、あなたをつなぐ  
コミュニケーション情報誌

2023  
6月号  
No.764



新大使に選ばれた平石静香さん、桧妃菜さん、中川かりんさん(左から)

## マンスリーレポート ————— 2

- ・新「すだち大使」決定
- ・第1回果樹部会「スダチ・温州ミカン園地巡回および情報交換会」
- ・第62回全農徳島県本部青果販売総体会議
- ・大阪や京都の小学生が農産物の食育学習
- ・JA阿波みよしふれあい産直市15周年感謝フェア
- ・JAグリーン中央店・勝浦店8周年記念大感謝祭
- ・JA徳島市女性部総会で利用拡大PR

## 旬の野菜でおうちごはん ————— 7

- ・さやいんげんの春巻き

## 浜ちゃん・ちっちゃんのうまいモノ絵日記 ——— 8

- ・その⑩ ～ジャガイモの販売～

## 交通安全のお知らせ ————— 8

- ・横断歩道における歩行者優先について

## トピックス ————— 9

- ・営農コラム

# マンスリーレポート

～徳島県特産スダチの魅力を爽やかにPR!～

## 新「すだち大使」決定

5月11日、徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会(会長＝坂本雅彦県本部長)は、徳島県JA会館において、すだち大使選考会をおこないました。これは、徳島県産スダチの需要促進と消費拡大のため、同協議会が県内外で実施する各種宣伝事業の協力者として、徳島県内在住で18歳以上の方を募集したものです。

選考会は、第一次選考(書類審査)を通過した14人が最終面接審査に臨み、スダチの持つ「健康」で「爽やか」なイメージを基準に、坂本会長をはじめ9人の審査員による選考をおこないました。

厳正な選考の結果、平石静香(ひらいし・しずか)さん、桧妃菜(ひのき・ひな)さん、中川かりん(なかがわ・かりん)さんの3人が新たな「すだち大使」に選ばれました。

平石さんは「スダチを知らない方をはじめ一人でも多くの人にスダチの魅力を伝えていきたい」、桧さんは「書道とスダチを絡めたPRをおこないスダチの魅力を伝えたい」、中川さんは「スダチを通して徳島の良さをPRしていきたい」と笑顔で抱負を話しました。

新「すだち大使」の任期は令和5年(2023年)6月からの2年間となっており、今後、県内外各地のイベントや各種メディアなどで徳島県産スダチをPRする予定です。

なお、選考会当日の様子は本会のYouTubeチャンネルで発信していますので、是非ご覧ください。



新大使に選ばれた平石静香さん、桧妃菜さん、中川かりんさん(左から)



坂本会長から証書を授与される新すだち大使

～産地と情報交換し効果的な果樹生産へ～

## 第1回果樹部会「スダチ・温州ミカン園地巡回および情報交換会」

5月15日、徳島県農業技術普及連絡協議会(会長＝坂本雅彦県本部長)は、県下5JA(徳島市・東とくしま・名西郡・アグリあなん・徳島北)の担当者、徳島県、当県本部など関係者29人出席のもと、第1回果樹部会「スダチ・温州ミカン園地巡回および情報交換会」を開催しました。

本協議会では、県内果樹の生産振興や関係機関との情報共有、栽培技術向上を目的に年4回程度果樹部会を開催しています。

第1回目の今回は、出席者全員でJA名西郡、JA徳島市、JA東とくしま管内の園地を巡回し、露地スダチや温州ミカン園地の着花調査等をおこないました。

園地巡回後、勝浦郡勝浦町のかんきつテラス徳島において情報交換会がおこなわれ、JA担当者より「今年の温州ミカンの着花は平年よりやや少ないが順調に生育している。一方で、スダチは昨年不作だったこともあり、着花は多い状況となっている」といった報告がありました。

営農支援課の森聡技術主管は「スダチは昨年が極端な裏年となったため、今年の着花はかなり多くなっています。このままでは着花過多となり、来年また裏年となることが予想されるので、着花が多い枝の切返し剪定を実施し、しっかりと着花数を減らし来年の結果母枝を増やして調整をおこなうことが大事です」と説明しました。

他にも、徳島県の担当者や森技術主管などからスダチの貯蔵病害、当県本部青果センターを活用したスダチの貯蔵、スダチ「勝浦1号」の試験栽培などについて発表があり、活発な情報交換会となりました。



園地巡回を行い視察をする関係者



情報交換会の様子

～令和5年度園芸取扱販売計画386億5000万円～

## 第62回全農徳島県本部青果販売総体会議

5月19日、当県本部園芸部は、徳島市万代町の徳島グランヴィリオホテルで「第62回全農徳島県本部青果販売総体会議」を開催しました。

この会議は、徳島県産青果物・花きの生産・流通・販売に携わる市場・JA・行政等の関係者が一堂に会して農業を取り巻く課題に向き合い、一致団結して生産・販売拡大をめざすことを目的として毎年開催しています。62回目となる今回は青果・花きパートナー市場40社の代表者、県内13JAの役員、徳島県や関係機関などから約170人が出席しました。

開会にあたり、主催者を代表して前田安夫運営委員会会長が「生産資材の高騰、エネルギー・食品価格の上昇により、国内農業生産の現場は過去にない厳しい状況におかれています。こうした中、徳島県本部においてはパートナー市場との連携による有利販売、県本部青果センターを活用した直販拡大に加えて、荷受システムの導入など園芸事業のバリューチェーン構築に向けた具体策を着実に進めることで、県下JA・組合員の期待と負託に応えてまいります」とあいさつをおこないました。

また、来賓の後藤田正純徳島県知事、岡田理絵徳島県議会議長、中西庄次郎徳島県農業協同組合中央会会長よりご祝辞をいただきました。

本会議では、坂本雅彦県本部長が、令和5年度の事業計画について次のとおり説明をおこないました。

園芸事業の令和5年度販売計画は、市場野菜301億2400万円、市場果実38億7600万円、花き・花木10億円、直販事業36億5000万円の合計386億5000万円の達成に取り組みます。主な品目別には、ニンジン64億5000万円、かんしょ62億7000万円、ブロッコリー28億円、レンコン20億9000万円などを計画しています。

事業戦略としては、パートナー市場40社との予約相対取引の拡大、県本部青果センターの機能強化による直販事業の拡大、全農荷受システム導入や県域集出荷選別施設の検討など園芸事業体制の構築により、系統園芸事業の維持・強化をめざします。

また、地産地消・国産国産の取り組みを通じた生産コストの価格転嫁に対する消費者の理解醸成や、地理的表示(GI)「徳島すだち」の活用などを含む食育活動・消費宣伝活動を積極的に展開します。

続いて、令和5年度のパートナー市場40社(青果重点パートナー市場19社、青果準パートナー市場15社、花き重点パートナー市場6社)が発表され、代表して神果神戸青果株式会社の原田俊一代表取締役社長に指定証が交付されました。また、これを受けて大果大阪青果株式会社の中内良一代表取締役社長が、市場を代表して挨拶をおこないました。

会議の最後には、本会の戸井和久チーフオフィサーによる「食農バリューチェーンの構築～世の中の変化に対応した付加価値商品づくり～」と題した記念講演がおこなわれ、食料・原料調達における課題とその対応方法についての講演内容に、出席者は熱心に耳を傾けていました。

閉会にあたり、佐々木伸夫運営委員会副会長より「本日のご提言やご講演の内容を、今後の徳島県農業の発展に役立ててまいります」と閉会のあいさつがおこなわれ、盛会のうちに終了しました。



第62回全農徳島県本部青果販売総体会議



主催者あいさつを行う前田安夫運営委員会会長



令和5年度事業計画について説明を行う坂本雅彦県本部長



指定証の交付を受ける神果神戸青果株式会社原田俊一代表取締役社長(右)



記念講演を行う戸井和久チーフオフィサー

# マンスリーレポート

～栽培体験を通して食の大切さを伝える～

## 大阪や京都の小学生が農産物の食育学習

当県本部園芸部は、子供たちに農産物を育てる大変さと喜び、また食べ物を大切に作る心や農家生産者の方々の思いやる気持ちを育んでもらうため、県内JAをはじめ、パートナー市場や関係機関と連携し定期的に小学校での栽培学習会を実施しています。

5月には、京阪神の小学校5校にJA里浦から甘藷の苗が提供され「さつまいも食育学習会」が開催されました。各小学校では、JA、市場、県、本会の職員による、なると金時の特徴や苗の植え方、上手な育て方についての授業や実際に圃場に出て定植作業をおこないました。

生徒たちは動画やクイズを交えた授業にとっても興味を示し、楽しく植え付けを学び、食育を体験しました。



◆**大阪市立岸里小学校** 5月12日、JA里浦、大果大阪青果株式会社、徳島県関西本部協力のもと、大阪市西成区の市立岸里小学校の2年生(50人)を対象に開催しました。

◆**大阪市立焼野小学校** 5月23日、JA里浦、大果大阪青果株式会社、徳島県関西本部協力のもと、大阪市鶴見区の市立焼野小学校の2年生(60人)を対象に開催しました。

◆**池田市立池田小学校** 5月25日、JA里浦、京都青果合同株式会社、徳島県関西本部協力のもと、京都市伏見区の市立池田小学校の1年生、2年生(45人)を対象に開催しました。



◆**宇治市立南小倉小学校** 5月26日、JA里浦、京印京都南部青果株式会社、徳島県関西本部協力のもと、宇治市の市立南小倉小学校で1年生、2年生(60人)を対象に開催しました。

◆**私立立命館小学校** 5月30日、JA里浦、京都青果合同株式会社、徳島県関西本部協力のもと、京都市北区の私立立命館小学校の2年生(120人)を対象に開催しました。



～福投げに大歓声～

## JA阿波みよしふれあい産直市 15周年感謝フェア

5月21日、JA阿波みよしは東みよし町加茂の「ふれあい産直市」で15周年感謝フェアを開催しました。

2008年のオープンから15周年を迎えた「ふれあい産直市」では、管内の生産者や会員（登録会員数 現在約220人）が作る野菜や果物のほか、総菜などの加工品も販売されており、当日は早朝より約600人の買い物客が詰めかけ大いに賑わいをみせていました。

新茶・新タマネギ・いりこの詰め放題や健康相談会、交通安全教室のビンゴ大会もあり、エコープの「飲む黒酢」販売コーナーでは、全農本所くらし支援事業部中四国エネルギー生活事業所徳島生活推進課職員が試飲や黒酢のレシピ紹介をおこないました。

また、会場では大人と子どもの部に分かれて、餅や青果物を貰える引換券を投げる「福投げ」もおこなわれ、多くの来場者が参加し大きな歓声に包まれていました。



来店者へ試飲や黒酢のレシピを紹介



「福投げ」に歓声を上げる子供たち

～JA東とくしま農業資材専門店で記念セール～

## JAグリーン中央店・勝浦店8周年記念大感謝祭

JA東とくしまは、運営する農業資材専門店が2015年のオープン8周年を記念し「JAグリーン中央店・勝浦店8周年記念大感謝祭」（期間：5月19日～28日）を開催しました。

小松島市立江町のJAグリーン中央店では、花苗・花鉢20%オフなどの特価商品をはじめ、農業機械、肥料、農薬、その他農業資材他、種苗、作業用品などが多数展示販売され、多くの来店客で賑わいました。また、住宅リフォーム相談や衣料品展示即売などの特設コーナーもあり、トラクターの展示相談コーナーでは、全農本所中四国広域農機事業所徳島農機事務所職員が質問や相談に応じました。

また、勝浦郡勝浦町のJAグリーン勝浦店でも、チラシを見た生産者などが次々に来店し、お目当ての商品を購入していました。

両店舗では、豪華景品が当たる大抽選会や粗品プレゼントもあり、期間中たくさんの方が来店されました。



豪華景品のプレゼントに笑顔の生産者（JAグリーン勝浦店）



JAグリーン中央店で商品を確認する来店者



徳島農機事務所職員が対応、トラクターの展示相談コーナー

# マンスリーレポート

～「エコープマーク商品」や「くらしの宅配便」を紹介～

## JA徳島市女性部総会で利用拡大PR

全農本所くらし支援事業部中四国エネルギー生活事業所徳島生活推進課は、JA徳島市の女性部総会で生活事業関連商品の紹介と利用拡大PRをおこないました。

### ◆5月16日：JA徳島市眉山支所女性部総会

各協議事項の最後に、女性部員16人に対し、厚生産業株式会社の宮崎講師が、エコープマーク品「なす漬の素」「きゅうり漬の素」「熟成ぬか床」などの特徴や使用方法を説明しました。また、泉州水なすやキュウリの漬け物などの試食も配布され、部員のみなさんは食味を確認していました。出席された部員は「いつも使っています。美味しいです」と話してくれました。

続いて、徳島生活推進課の佐藤職員が、JAが提供する宅配サービス「JAくらしの宅配便」の紹介や会員登録、注文の仕方などを説明し、部員のみなさんはパンフレットを確認しながら熱心に耳を傾けていました。

### ◆5月23日：JA徳島市佐那河内支所女性部総会

各協議事項の最後に、女性部員46人に対し、大興産業株式会社の池田講師がエコープマーク品「らっきょう酢」「ほめられ酢」「飲む黒酢de」などの特徴や使用方法を説明しました。カルシウムと酢と一緒に摂取すると骨粗しょう症の予防になると言われており、肉料理やデザートレシピにも使用できる酢のお話にも部員のみなさんは真剣に耳を傾けていました。

また、キノコのマリネや鶏の照り焼き、飲む黒酢(りんご・ブルーベリー)の試食・試飲も配布され、部員の方々は食味を確認しながら「飲みやすくて美味しい」と話していました。

部員の方からは「酢を使用したブルーベリーのレシピを教えてください」と質問があり、講師は「酢に漬けて食べる」「漬けたブルーベリーを漬けてジャムにする」といったレシピを紹介しました。

徳島生活推進課では、今後もこうした活動により、取扱い商品の認知度を高めるとともに商品の普及・利用拡大に努めてまいります。



「なす漬の素」の説明を行う厚生産業株式会社宮崎講師



「JAくらしの宅配便」の紹介を行う徳島生活推進課佐藤職員



「らっきょう酢」の説明を行う大興産業株式会社池田講師



試食や試飲をして食味を確認する女性部員

料理研究家HITOMI先生が薦める、簡単スピーディー、そして楽しんで作れるレシピをご紹介します!



## さやいんげんの春巻き



### ▼材料(2人分)

さやいんげん……………8本  
春巻きの皮……………2枚  
糸唐辛子……………少々  
油……………適量

A 小麦粉、水……………各大さじ1  
B 塩麹、水……………各小さじ1

### ▼作り方



① さやいんげんは筋を取っておく。春巻きの皮は十字に切り、四等分にする。



② 春巻きの皮でさやいんげんを巻き、巻き終わりにAを付け、とめる。

③ ②を170度の油で揚げ焼きし、Bに糸唐辛子を細かく切り、混ぜたものを添える。

### POINT

鍋肌1cm程の油量で揚げ焼きにするとカリッと揚がる。



料理研究家 HITOMI <http://www.hitomi-cook.com>

◎免許:調理師免許、食空間テーブルコーディネーター2級、JA全農とくしま園芸部 クッキングアドバイザー  
◎賞:2014年NHK社会貢献賞授与 ◎活動歴:TV=NHK徳島放送局料理コーナーレギュラー出演/ラジオ=TBS「伊集院光とラジオと」に毎月レシピ提供 ◎JA全農とくしまとのコラボイベント:大阪ガスハグミュージアムにて鰻を使った爽やか料理講習会/大阪中央卸市場にて徳島県の食材を使った料理講習会 ◎カルチャー講師:兵庫イオンカルチャー(姫路、加古川、明石の3店舗)講師/神戸市立長田区勤労センター、神戸市立西區民センター講師 ◎店舗用レシピ開発、商工会での商品開発など



## その157 ~ジャガイモの販売~

### ◆831生産者◆

3月末で定年退職して、現在は、家庭菜園の延長で生産者としてJA直売所へ少量多品目の831（やさい）を出荷している。

### ◆市場流通と、直売所流通の違い◆

市場出荷の野菜作りで儲けるには、同じ規格品を大量に生産して、JA経由で販売してもらえれば、儲かる。そう、コモディティ商材は量の多さが儲けの決め手だ。一方直売所流通は、同じ野菜を毎日数箱単位で出荷しても売れ残るだけである。

### ◆儲けの公式◆

ここで、農産物に限らず、売上げの公式がある。その公式は『単価@×量×頻度』であるが、直売所では量を増やしても、そもそも購買力のキャパが限られるので売れ残る。そこで、その他のファクターを上げることを考える。すると、まずは単価@アップである。

### ◆@単価アップのヒント◆

肥料や農薬、包装資材などが値上がりしているの、まったく同じジャガイモでも、生産コスト上昇分を上乗せして、単純に単価を上げることもできるが、隣の出荷者がコスト上昇分を自分が被って今までと同じ単価で販売した場合、競合者との単なる安売り合戦の価格競争に追い込まれてしまう。

そこで、ひと工夫が必要になる。ヒントは購買者の声にあった。前年度ジャガイモを購入していただいた方から「インカのめざめが甘くておいしい。今年はいつから並ぶの?教えて」であった。

直売所では、コモディティ商品でない野菜の販売が単価アップに繋がる。そこで、量は少なくとも高単価で販売できるジャガイモを作って出荷しようと考えた。昨年度、試験的に取り組んだアントシアンが多く含まれる赤いジャガイモも植えた。もうすぐ収穫である。

### ◆廃棄商品の減少対策◆

ジャガイモは光に弱い。蛍光灯の光にでも長くあたっていると、緑色に変色してくる。ジャガイモは茎に蓄えられた養分がイモになっているからである。ちなみに甘藷のなると金時は根に養分が蓄えられたものなので、光があたっても緑色にはならない。

ジャガイモが茎色のうすい緑のようにみえてくると、直売所では棚から下げられる。そこで、他の直売所を参考に段ボールの「ふた」をつかって被せたが、直売所の管理者には不評であった。

### ◆831(野菜)づくりから808(八百屋)へ◆

直売所出荷にはコモディティ商品よりも、他と差別化できる商品が単価アップにつながる話をしたが、他の単価アップのお話や、頻度アップのお話は次回以降にすることに。今回は、おやしギャグの内容が「ないよう」でした。毎回楽しみにご期待いただいている方々には、次回までお待ちくださいませ。



## 交通安全のお知らせ

### 横断歩道における歩行者優先について

令和4年中に、歩行中に交通事故で亡くなった方は6人(前年比-7人)、そのうち4人の方が道路を横断中に被害にあっています。歩行者事故の多くは、歩行者が道路を横断中に発生しています。運転手の方は、周囲の状況をよく確認して運転してください。

#### 守って! 交通ルール

##### 横断歩道に接近する場合

車は、横断歩道に接近する場合は、その横断歩道の直前(停止線の直前)で停止できるような速度で進行しなければなりません。



##### 横断歩行者がいる場合の一時停止

車は、進路の前方の横断歩道を横断し、または横断しようとする歩行者がいるときは、その横断歩道の直前で一時停止し、歩行者の通行を妨げないようにしなければなりません。

##### 側方通過前の一時停止

車は、横断歩道またはその手前の直前で停止している車がある場合、停止している車の側方を通過して前方に出ようとするときは、前方に出る前に一時停止しなければなりません。

##### 横断歩道手前での追い抜き禁止

車は、横断歩道およびその手前の側端から30メートル以内では、前方を進行している他の車の側方を通過して前へ出てはいけません。

##### 違反点数2点

反則金 大型:12000円 普通:9000円  
二輪:7000円 原付:6000円

##### 歩行者の方へ

道路を横断する際、近くに横断歩道がある場合は、必ず横断歩道を渡りましょう。

##### 道路の斜め横断は危険です!

また、歩行者が最優先される横断歩道ですが、危険な運転をする車もあります。自身の身を守るためにも、横断する前は左右の安全確認を行ってください。

徳島県警察本部 交通企画課



# 営農コラム

アフターコロナ時代でのIターンUターンへの取組み拡大を 営農支援課 技術主管 吉永 博明

徳島県内を見渡すと、2020年の農業センサスでは3,034haの荒廃農地(耕作放棄地)が見受けられます。農業経営体でみると平成22年センサスでは約2万2千経営体があり5年前に比べると11.7%減少しています。農業者の高齢化や担い手不足はもちろん、青果物の安値・生産資材の高騰による放棄地の増加が大きな要因となっています。

また、農地の転用方法として太陽光発電の増加が見受けられます。太陽光発電の設置様式も変わり、農地併用型の高所パネルの設置では、下部で農作物が栽培されていますが、日陰での栽培品目は限られ、なかなか収益性にはつながらないのが現状です。

このような耕作放棄地を解消するには大規模農家への田畑貸与や後継者の確保・IターンUターンでの若い力が必要です。

徳島県においても県外からの地方移住者の就農が見受けられるようになりました。しかし、農業は天候に左右され、臨機応変な対応が必要で、新規就農者への補助体制として営農指導力や地域の生

産者間でのコミュニケーションによる助け合いが求められています。また、いざ就農し農業を始めるには農地の他、農業機械も必須であり、資金面でも手厚い補助が必要です。

本県では、新規就農者育成総合対策(就農準備資金・経営開始資金)や青年等就農資金を活用した就農支援の仕組みは整備されていますが、今後の農業人口減少に歯止めをかけるため、支援制度の拡大を図りつつ、ここ徳島県の豊富な自然環境を活かしながらIターンUターンでの活気あふれる若い力を呼び込みたいものです。



## 新規採用者

令和5年6月1日付



氏名	コース	職能資格	新職務
坂東真千子	担当職	3級	営農資材部 肥料農薬課

## 新規採用職員紹介

- ①出身地 ②生年月日 ③出身校 ④趣味・特技 ⑤好きな食べ物  
⑥学生時代または社会人時代の思い出 ⑦仕事への抱負

JA全農とくしまに新規採用職員が入会しました。よろしくお願いいたします。



営農資材部 肥料農薬課 坂東 真千子(ばんどう まちこ)

- ①徳島市南矢三町
- ②1989年9月7日
- ③四国大学
- ④音楽鑑賞
- ⑤カレー・焼き鳥
- ⑥社会人時代、地域のお祭りに参加し、屋台を出店したこと。
- ⑦生産者と消費者を安心して結ぶ懸け橋として、徳島県の農業の発展に寄与できるよう精一杯頑張ります。



# 農薬を適正に使用して 『農作物・生産者・環境』の 三つの安全を守りましょう

安定的な生産のために農薬は必要な資材です、適切に使いましょう  
農薬は、病害虫・雑草への効果だけでなく、農作物への薬害や残留、環境影響などについて安全性が確保できるよう使い方が決められています。安全に使うために地域での連携を大切にしましょう。

ドローンを使った農薬散布の際には新しいルールを守って  
適正に使用しましょう。

ドローンを使った  
農薬散布は慎重に  
行っています！

## 農薬使用の基本

- 農薬ラベルを確認、使用方法を守る
- 周辺への農薬飛散防止対策を実践する
- 農薬の管理を徹底し、保護具を必ず着用する

## 防除対策の基本

- 病害虫・雑草が発生しにくい環境をつくる
- 発生状況を確認し、適切な資材を適期に使う
- 適切な防除ができたか確認する

基本を守って、農作物の安全・生産者の安全・環境の安全を徹底します。

# 農薬を安全に使用するためのお願いです JAグループ 使用前・使用中・使用後の確認が大切です

農薬使用のチェックリストで確認してみましょう!

## 農薬の使用前に確認する事は何か?

- 農薬登録番号のある農薬を選びましょう
- 農薬ラベルをよく読みましょう  
作物名、使用量・希釈倍数、使用時期・収穫前日数、  
総使用回数、注意事項、最終有効年月を確認しましょう
- 散布器具の点検を行い、前回使用時の薬液が残っていないか等確認し、**使用前に通水し洗浄**しましょう
- 生産者同士、住民、他業者と連携をとり、作業スケジュールなど連絡を密に行いましょう



農薬登録番号のある農薬を使いましょう

殺虫剤		水和剤	
作物名	使用量	希釈倍数	使用回数
トマト	1000~2000倍	1000倍	1回
イチゴ	1000倍	1000倍	1回
イチゴ	2000倍	1000倍	2回

適用内容の範囲で使用します



使用してよい作物を確認します

効果的な使い方、薬剤回数のための注意などを確認します

安全に使用するための注意事項を記します

## 農薬の使用時に確認する事は何か?

- カッパ天国エースなどの防除衣や農業用マスク、ゴーグル・メガネ、手袋などの**保護具を着用**しましょう
- 散布圃場面積にあわせ、**散布液は残らないよう**調整しましょう
- 農薬飛散防止のための**基本的な施用法を実践**しましょう
  - 風向きに注意し、風の強い時は散布しないようにしましょう
  - 作物の近くから散布し、圃場の縁近くは内側に向けて散布しましょう
- 育苗箱やセルトレイなどに農薬を使用する際は、**農薬がこぼれないよう注意**し、後作への影響を防止しましょう
- 土壌くん蒸は**かならず被覆**しましょう



## 農薬の使用後に確認する事は何か?

- 散布器具のタンクやホースに農薬が残らないようによく洗浄しましょう
- 廃液は河川等の水系に流れないように注意しましょう
- 水田の農薬使用后、**7日間は止水管理**を徹底しましょう
- 農薬は鍵のかかる**専用保管庫**に入れ管理することを徹底しましょう
- ペットボトル等の移し替えは誤飲の原因になるのでやめましょう
- 圃場、作物ごとに**農薬の使用履歴を都度記録**しましょう  
散布日、農薬名(剤型)、散布した量(使用量・希釈倍数)は必ず記載しましょう



農薬は 周りに配慮し 正しく使用!

2023 安全防除運動展開中  
JA 全農 耕種資材部

Rinnai

ガス衣類乾燥機「乾太くん」

# 洗濯物って、 どこで乾かしていますか？



ガス衣類乾燥機

はやい  
**乾太くん**

たっぷり 使い勝手の  
乾燥の 良い  
8kgタイプ 5kgタイプ

1 電気よりも早い！

2 とにかくリーズナブル！

あなたのお悩み、**カラッと解決！**

おすすめは、**ココ**です

お問い合わせはこちら



お近くのJA または

ジェイエイ徳島燃料サービス株式会社

☎ 088-695-5380 までお問い合わせください



JAタウン  
「新鮮大好き徳島」



JA全農とくしま  
YouTubeチャンネル



JA全農とくしま  
Instagram



JA全農とくしま  
クックブック



JA全農とくしま  
ホームページ

全農グループ経営理念

私たち全農グループは、**生産者と消費者を  
安心で結ぶ懸け橋**になります。

— 私たちは「安心」を3つの視点で考えます。 —

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

**全農**

JA全農とくしま

<https://www.zennoh.or.jp/tm/>



## 「JA全農とくしま情報」に 関するお問い合わせ先

本紙「JA全農とくしま情報」の購読料・配送料は  
無料です。送付先の氏名・住所変更や、  
送付の停止につきましては、  
JA全農とくしま企画管理課広報室  
**(電話 088-634-2462)**  
までご連絡ください。

